

	日にち	時間	会場	演題	主催者	言語/通訳	キーワード	概要
S01	3月7日 (金)	10:30-11:00	橘	レジリエントな社会のための国際的・多学際的協力に向けて-Opening	東北大学災害科学国際研究所	英語	災害科学コアリサーチクラスター APRU 国際研究協力	東北大学が指定国立大学に指定されてから8年が経ちました。 これに伴い、「災害科学国際研究クラスター（CRCDS）」が設立され、東北大学災害科学国際研究所のメンバーを中心に、先進的な災害科学の研究を拡大し、国際的かつ学際的な共同研究ネットワークの構築に努めてきました。 最新の科学・学術活動に目を向けることで、本セッションでは、国際的な研究協力の強化とより強靱な社会の構築を通じて「災害科学」の体系化に貢献するCRCDSの活動について、また、CRCDSが今後進むべき方向性について議論します。 また、本セッションでは、環太平洋地域の17か国・地域の61大学が加盟する環太平洋大学協会（APRU）の国際連携に関する報告も行います。 環太平洋大学協会（APRU）の国際協力に関する報告も行われました。同協会は環太平洋地域の17の経済圏にまたがる61の研究大学で構成されています。 1997年に設立されたAPRUは、加盟大学、研究者、政策立案者間の連携を促進し、この地域の経済、科学、文化の発展に貢献しています。国際事務局は香港のサイバーポートに置かれています。
S02	3月7日 (金)	11:00-12:30	橘	レジリエントな社会のための国際的・多学際的協力に向けて -Core research cluster for disaster science	東北大学災害科学国際研究所	英語	災害科学コアリサーチクラスター APRU 国際研究協力	東北大学が指定国立大学に指定されてから8年が経ちました。 これに伴い、「災害科学国際研究クラスター（CRCDS）」が設立され、東北大学災害科学国際研究所のメンバーを中心に、先進的な災害科学の研究を拡大し、国際的かつ学際的な共同研究ネットワークの構築に努めてきました。 最新の科学・学術活動に目を向けることで、本セッションでは、国際的な研究協力の強化とより強靱な社会の構築を通じて「災害科学」の体系化に貢献するCRCDSの活動について、また、CRCDSが今後進むべき方向性について議論します。 また、本セッションでは、環太平洋地域の17か国・地域の61大学が加盟する環太平洋大学協会（APRU）の国際連携に関する報告も行います。 環太平洋大学協会（APRU）の国際協力に関する報告も行われました。同協会は環太平洋地域の17の経済圏にまたがる61の研究大学で構成されています。 1997年に設立されたAPRUは、加盟大学、研究者、政策立案者間の連携を促進し、この地域の経済、科学、文化の発展に貢献しています。国際事務局は香港のサイバーポートに置かれています。
S03	3月7日 (金)	13:15-14:30	橘	レジリエントな社会のための国際的・多学祭的協力に向けて APRU	東北大学災害科学国際研究所	英語	災害科学コアリサーチクラスター APRU 国際研究協力	東北大学が指定国立大学に指定されてから8年が経ちました。 これに伴い、「災害科学国際研究クラスター（CRCDS）」が設立され、東北大学災害科学国際研究所のメンバーを中心に、先進的な災害科学の研究を拡大し、国際的かつ学際的な共同研究ネットワークの構築に努めてきました。 最新の科学・学術活動に目を向けることで、本セッションでは、国際的な研究協力の強化とより強靱な社会の構築を通じて「災害科学」の体系化に貢献するCRCDSの活動について、また、CRCDSが今後進むべき方向性について議論します。 また、本セッションでは、環太平洋地域の17か国・地域の61大学が加盟する環太平洋大学協会（APRU）の国際連携に関する報告も行います。 環太平洋大学協会（APRU）の国際協力に関する報告も行われました。同協会は環太平洋地域の17の経済圏にまたがる61の研究大学で構成されています。 1997年に設立されたAPRUは、加盟大学、研究者、政策立案者間の連携を促進し、この地域の経済、科学、文化の発展に貢献しています。国際事務局は香港のサイバーポートに置かれています。
S04	3月7日 (金)	14:45-15:45	橘	東北大学とUCLの国際学術協力による災害科学の共同大学院プログラム	東北大学災害科学国際研究所	英語	災害科学 高等教育 国際協力	東北大学とロンドン大学（UCL）は、戦略的連携に基づく全学的な学際的教育・研究パートナーシップを構築してきました。このパートナーシップは、レジリエンスや災害関連の研究分野を中心に、大きな成果を挙げています。共同研究にとどまらず、両機関は東北大学の複数の大学院プログラムに共同で参加し、10年以上にわたる研究者や学生の交流、共同指導、その他の取り組みを通じて、国際社会における卓越性の追求に取り組んできました。2022年からは、文部科学省「大学の世界展開力強化事業：インド太平洋地域をはじめとする大学の世界展開力の強化」にも採択され、レジリエントな社会の構築を目的とした国際交流・教育プログラムを実施し、最終的には共同学位プログラムの設置を目指しています。 本セッションでは、日英の研究者および学生が、この取り組みの進捗状況、今後の方向性、災害リスク軽減分野における能力構築への貢献について発表します。
S05	3月7日 (金)	16:00-17:30	橘	大規模災害からの復興と大規模災害への備え	東北大学災害科学国際研究所	英語	災害レジリエンス 復旧 備え	環太平洋火山帯に位置するこの地域では、人間と社会の強靱性を高めることが極めて重要です。このセッションでは、災害科学、健康、地域社会の強靱性、政策立案の専門家をフィリピン、オーストラリア、日本から招き、西太平洋地域で予想される大規模災害に対する備えと、大災害からの復興の経験を共有することを目的としています。2013年にはフィリピンが台風ハイエン（アジア名：ヨランダ）の被害を受け、首都圏ではビッグ・ワンが予想されています。 オーストラリアは、山火事、洪水、サイクロン、熱波などの災害の歴史があり、気候変動の影響に絶えずさらされています。2011年の東日本大震災の後、日本は2024年の能登半島地震をはじめいくつかの地震を経験しました。東京首都直下地震や南海トラフ地震、そして急激な気候変動による災害が起こる可能性が高いです。災害を完全に防ぐことはできません。しかし、災害リスクを軽減し、より強靱な社会を構築することで、被害を最小限に抑え、より迅速な復旧を実現することができます。 このセッションでは、仙台防災枠組と社会全体のアプローチに従い、災害リスク軽減と保健分野のさらなる連携も推進します。
S07	3月7日 (金)	10:30-11:15	萩	中小企業の「事業継続」について	AIG損害保険株式会社	日本語	自然災害 事業継続 保険	第1章 日本における自然災害のリスク 第2章 自然災害で中小企業の事業継続ができなくなる 第3章 事業中断に伴う顧客喪失の影響 第4章 資金をつなぐことの重要性 第5章 企業経営者インタビュー 第6章 国の事業継続力強化計画の推進 第7・8章 全国の中小企業が抱える課題 第9章 SMEレジリエンス 第10章 保険によるリスクファイナンス ◆◆法人会のBCP保険「地震休業サポート 地体力」プロモーション映像◆◆
S08	3月7日 (金)	11:45-12:30	萩	原子力災害下における人道支援開始ガイド～支援者が被災者の権利とニーズを踏まえた支援を始めるために～（仮称）」の紹介と意見交換	特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム（JPF）、原子力災害下の人道支援ガイド（仮称）策定プロジェクト実行委員会	英語	仙台防災枠組2015-2030 原子力災害への備え 支援者向けガイド	「仙台防災枠組2015-2030」では、同枠組が取り扱う災害リスクの中に原子力災害も位置付けられた。本ガイドは、原子力災害下で活動する支援者としての備えを2011年3月東日本大震災以降の福島支援を踏まえてまとめたものとなる。WBFでは取り組みの経緯と合わせ、日本及び世界のNPO/NGO等の支援者が原子力災害発生時に行う被災者・避難者支援を、被災者一人ひとりの尊厳と権利の保護に配慮したものとし、また支援団体として個々の従事者の安全対策を備えるなど、一定のリスクを回避したうえで従事できるように編纂されたガイドの内容を紹介予定。
S09	3月7日 (金)	13:15-14:30	萩	プラネタリーディフェンスー宇宙からの災害への対応	宇宙航空研究開発機構	日本語【同時通訳あり】	地球防衛 天体衝突 自然災害	小惑星や彗星のような太陽系小天体が地球に衝突すると、非常に大きな自然災害となり得る。そのような災害を防ごうとする活動がプラネタリーディフェンス（惑星防衛）であり、近年、その活動が国際的に非常に活発になってきた。 現在、地球に接近する天体は36,000個以上発見され、10個ほどの地球接近天体に探査機が送られている。小惑星の軌道を変更する実験も行われた。国連の下に天体衝突を議論するグループが設置されたり、国際会議やアウトリーチ活動も頻繁に行われている。本セッションでは、プラネタリーディフェンスの最新状況を紹介した上で、この問題に対してどのような対応をすべきであるのかを議論する。
S10	3月7日 (金)	15:00-16:30	萩	災害ケースマネジメントの現在地と未来への道標	宮城県	日本語【同時通訳あり】	アウトリーチ 官民連携 伴走型支援	近年、被災者支援の新たな手法として、一人ひとりの状況を把握し、官民連携の下、きめ細やかな支援を伴走型で行う「災害ケースマネジメント（DCM）」に注目が集まっている。この手法は東日本大震災の被災地である宮城県仙台市で先駆的に実践され、我が国の大規模災害時における被災者支援のモデルケースとなった。 現在、自治体の防災計画に位置づけられる等、広がりを見せるとともに、今後の更なる社会実装に向けた期待が高まっている。本セッションではDCMの基本的な考え方や必要性について発表するとともに、これまでの取組の成果や課題を振り返りつつ、災害の頻発化・激甚化を踏まえ、これからの時代に求められる被災者支援の在り方を探求する。

追 加	S11	3月7日 (金)	17:00-18:00	萩	災害文化を醸成するアプローチ ―日常生活を見つめる「くらしともしもの研究所」の取り組みから―	一般社団法人 Granny Rideto	日本語【同時通訳あり】	災害文化 くらしともしも 防災環境都市	仙台市は、2011年3月11に発生した東日本大震災からの復興において、将来の災害や気候変動リスクなどの脅威にも備える「防災環境都市づくり」を進めてきた。災害に強いまちづくり・ひとづくりを進める中、2016年から毎年開催されている防災イベント「仙台防災未来フォーラム」の参加者や出展団体は年々増加し、防災への関心は高い水準を保っていると言える。一方で、食料の備蓄や避難訓練などの防災行動が、推奨されオプシオン化することで、義務感や「やらされ感」が先行し、各人の生活から乖離している面もある。 東日本大震災で私たちが得た大きな教訓は「災害は想定を超える」であった。そこで仙台市は、「災害は発生するものと認識した上で、災害が起きても、それを乗り越える術を持った社会文化＝災害文化」の重要性に着目し、この「災害文化」の創造を市民とともに取り組むこととした。本セッションでは、楽しみや探求心に基づく新しいアプローチで、災害への備えを文化として日常に織り込むための災害文化創造プロジェクト「くらしともしもの研究所」について、その活動内容と成果、課題を紹介する。"
	S12	3月8日 (土)	08:30-09:30	橘	学校防災の拡充に向けたWeb GISの利活用～日本・台湾での取組～	東北大学災害科学国際研究所防災教育協働センター	日本語/台湾語 【同時通訳あり】	防災教育 避難 教員研修	日本では重ねるハザードマップ、キキクルなど、Web GISを活用した自然災害リスクコミュニケーションが促進されている。災害時要配慮者利用施設である学校でも、自然災害発生リスクが高まる中、緊急避難の判断を行うためにリアルタイムの気象・防災情報の活用は一つの有効な方策である。その一方、緊迫する状況で刻々と変わる情報をどう活用できるかについては多くの課題がある。本セッションでは、デジタル大国である台湾国立成功大学ならびに台湾教育部からのゲストを招聘し、台湾におけるWeb GISを活用した学校向けの災害リスクコミュニケーションの取組を共有しWeb GISを活用した災害リスクコミュニケーション促進に向けた方策についての検討を行う。
	S19	3月8日 (土)	10:00-11:00	橘	事前防災取組の促進：ファイナンスと防災ソリューション	<主催>日本政策投資銀行、日本経済研究所 <共催>産業省	英語【同時通訳あり】	仙台防災枠組 2015-2030 事前防災投資 防災スタートアップ	災害後の復旧復興フェーズでは、政府による財政支援のみに頼るのではなく、事前防災投資による災害リスク軽減が、仙台防災枠組（特に優先行動3）の趣旨です。 適応ファイナンスを例にとると世界的に最も多いとされるのはdebtファイナンスです。将来の事前防災投資プロジェクト向けファイナンス（green bond/loan, social bond/loan, Social resilience bond等）が良く知られておりますが、本日は、組織に蓄積され維持している防災レジリエンスを評価するファイナンスの重要性を示します。 日本政策投資銀行のBCM格付融資を含めた複数の例を示すとともに、社会や人の強靱性を高めるイノベーション（インフラに限らず避難所での人や健康リスク軽減などに事前防災投資に貢献する技術・商品・サービスを含む）、リスク軽減を組み込んだファイナンスの促進について事例を挙げて示します。
	S14	3月8日 (土)	11:30-12:30	橘	【レジリエント社会構築に向けた新たな連携】よりよい復興をもたらす身近な繋がりが	東北大学災害科学国際研究所	日本語【同時通訳あり】	よりよい復興 減災 防災意識	"多様かつ激甚な災害が増加する中、被害を低減しつつしなやかに回復・復興するレジリエントな社会の構築が必要である。東日本大震災後の復興では、「よりよい復興」を合言葉に、社会基盤施設などのハードインフラだけではなく人々の繋がりがりや生業、生活復建のための地域経済回復が希求されてきた。 本セッションでは、隣人や所属する組織といったコミュニティとの繋がりをキーとして、発災から14年が経過する東北地方での復興過程や過去の経験・教訓を振り返り、平時および発災後にできることについて話題提供を行う。これから復興へ向かう能登地方や、南海トラフ関連地震警戒地域においてできること・すべきことの教訓を議論する。"
	S15	3月8日 (土)	13:30-14:30	橘	絵本による世界の災害文化の醸成（仮）	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター	日本語【同時通訳あり】	絵本 教育 災害文化	昨年度2023年に「災害語り継ぎと絵本」をテーマにセッションを行いました。その後、当方ではプロジェクトオリジナルの3冊の絵本の発行に至りました。これまでの経過・実績を報告するとともに、今後これら成果としての「防災絵本」を活用し、世界の防災・減災に貢献していくヴィジョンをお伝えします。（仮）
	S16	3月8日 (土)	15:00-16:00	橘	防災まちづくりと女性のリーダーシップ2025	仙台市男女共同参画課、（公財）せんだい男女共同参画財団	日本語【同時通訳あり】	女性のリーダーシップ まちづくり 仙台防災枠組2015-2030	災害に強くレジリエントなまちづくりには、平常時から意思決定の場への女性の参画が不可欠である。このセッションでは、「仙台防災枠組2015-2030」に明記された女性のリーダーシップ促進に向けて、女性たちの実践が地域にどのような変化をもたらしてきたかを振り返り、女性がリーダーシップを発揮できる地域づくりについて考える。
	S17	3月8日 (土)	16:30-17:30	橘	「気候変動×防災」の社会実装に向けた日本政府の取組	経済産業省、環境省	英語		気温上昇に伴って、世界的に、自然災害及び被害額は増加し、社会課題解決のニーズは拡大している。今後も気温上昇が見込まれ、気候の変化や大雨、干ばつなどへの対応など、各国における気候変動への「適応」対策の必要性やそのためのコストは高まっていくと予想されており、2030年には年間最3,870億ドルにも上るとの試算がある（Adaptation Gap Report 2024, UNEP）。日本においても、気候変動と防災はあらゆる分野で取り組むべき横断的な課題である。環境省では、気候変動と防災を連携させて取り組むことが必要と考え、実践マニュアルを作成し、2024年に公開した。 また、経済産業省では、「災害大国」日本として、日本企業の有する優れた技術・製品・サービスの導入を通じて、途上国等の気候変動適応に貢献する可能性をビジネスチャンスと捉え、日本企業の海外における適応ビジネスを推進している。 本講演では、環境省と経済産業省が実施する「気候変動適応×防災」の社会実装に向けた国内外での取組を紹介する。
	S06	3月8日 (土)	19:15-20:45	橘	国際防災推進のための学術・行政と民間セクターの対話 一般財団法人世界防災フォーラム 共催 JICA	一般財団法人世界防災フォーラム 共催 JICA	英語【同時通訳あり】	仙台防災枠組2015-2030 気候変動適応	「キコヘン」という言葉は、気候変動（キコ）による災害リスクを減らすために、どのように行動変容（＝変化、ヘン）するか考えようという、WBF2025からのメッセージです。 地球温暖化により、災害が頻発し激しくなっていると言われていいます。このセッションではアジア各国の政府からの防災担当官の方々より、激甚化する災害や防災の現状を語って頂いた上で、日本がどう協力できるか、官民両者の立場を踏まえて議論していきます。
	S20	3月8日 (土)	10:00-11:00	萩	インドネシアにおける災害復興で現地の学術研究機関が果たす媒介機能の活用に向けて	東北大学災害科学国際研究所	英語	学術研究機関が果たす媒介機能 インドネシアにおける防災 国際共同研究	本セッションでは、もともと災害頻発国であり、21世紀に入ってから大規模な災害が多く発生しているインドネシアをフィールドにした研究（科研費採択課題「インドネシアにおける災害復興で現地の学術研究機関が果たす媒介機能の活用に向けて」）の成果を基に、災害復興や防災教育の過程において現地の学術研究機関が果たし得る地域住民と外部アクター等との間の相互理解・合意形成における媒介機能にフォーカスし、現地の研究協力者（ジャクアラ大学・インドネシア国立研究革新庁に所属する研究者）からの事例報告等も踏まえつつ、現地の学術研究機関が基幹的な役割を果たすための媒介機能の社会実装を企図した政策提言を行う。
	S21	3月8日 (土)	11:30-12:30	萩	産学官金連携で実現する防災ソリューションの創出から社会実装～仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォームの挑戦～	仙台市	日本語【同時通訳あり】	仙台防災枠組 仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォーム 社会実装	仙台市では、仙台防災枠組が掲げる世界の災害リスク低減への貢献を目指し、「仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォーム」を通じて、産学官金連携による防災関連産業のオープンイノベーションを推進し、新たな製品・サービスの開発を支援するとともに、BOSAI-TECHイノベーション・エコシステムの形成に取り組んでいる。本セッションでは、BOSAI-TECH事業およびそこから生まれた社会実装事例を仙台市職員およびBOSAI-TECHプラットフォーム参画企業から紹介する。
	S22	3月8日 (土)	13:30-14:30	萩	観光分野における災害リスク削減のあり方とは ―気候変動や複合災害リスクなどの不確実性にわれわれはいかに立ち向かうか―	仙台市	日本語【同時通訳あり】	観光レジリエンスサミット 観光危機管理 仙台市	気候変動により災害が激甚化している現在、観光客や観光産業において、その影響の大きさが注目を集めている。仙台市では昨秋、「仙台市観光危機管理マニュアル」を作成し、災害等による観光危機発生時の本市の基本的な対応を定めている。 本セッションでは、専門家や地域の民間事業者、国際機関からの発表を通じて、観光危機管理の概要や、世界各地における観光危機管理や災害リスク削減の取り組み事例を紹介する。
	S23	3月8日 (土)	15:00-16:00	萩	気候変動に対応した災害レジリエンス向上と地域社会の持続可能な発展に向けた本邦技術の活用	パシフィックコンサルタンツ株式会社	日本語【同時通訳あり】	気候変動、レジリエンス、土砂災害	気候変動を踏まえたレジリエンス向上について、近年発生した災害の事例や国内外の取り組みについて紹介し、対応策を含めた計画策定の重要性、官民連携、環境・エネルギーの側面など様々な視点から議論を行います。
	S24	3月8日 (土)	16:30-17:30	萩	「キコヘン」の影響大・仙台防災枠組の目標達成どうする？	日本経済研究所	英語【同時通訳あり】	仙台防災枠組 2015-2030 事前防災投資 防災スタートアップ	
	S25	3月8日 (土)	18:00-19:00	萩	レジリエンス定量化の戦略構築と実証	東北大学災害科学国際研究所	英語	レジリエンス指標 ビッグデータ リスク評価	防災・復興政策におけるEBPM（エビデンスに基づく政策立案）の流れの中で、レジリエンス向上策を議論する際に、計測可能な定量的評価指標が必要となる。しかしながら、単一の指標や単一のアプローチであらゆる領域とスケールのレジリエンスを評価することはおそらく困難である。そこで本セッションでは、レジリエンスの定量化に向けた戦略について、東北大学―防災科研マッチング研究支援事業におけるこれまでの研究成果等を基に整理して提示するとともに、特に観測可能な社会経済活動指標を用いてレジリエンスを計測する指標に係る提言を行う。さらに、それらが正しくレジリエンスを評価しているかについて実証的に検証する。
	S26	3月8日 (土)	08:30-09:30	白樺	FUKUSHIMAサイエンスパークの構想	東北大学グリーン未来創造機構 福島復興支援室	日本語	浜通り復興支援 人材育成 イノベーション	東北大学では、社会共創事業を福島県浜通り地域にも展開するために「FUKUSHIMAサイエンスパーク構想」を推進しており、その一環として世界へ発信する「BOSAI人材育成」などに取り組んでいる。東日本大震災の教訓や災害対応を学び、「想定外」を無くし「犠牲者ゼロ」を実現するために、既存の防災・減災の知識と最先端の【総合知】を合わせ持ち、将来の社会変化にも柔軟に対応できる人材育成を目指している。

S27	3月8日 (土)	10:00-11:00	白樫	Infrastructure safety and regional resilience during disasters	Ulsan National Institute of Science and Technology	英語	Sea level rising coastal community disaster risk reduction	地球温暖化と気候変動により、海面上昇（SLR）と水文気象学的災害を主要因とする沿岸洪水の頻度が高まっています。韓国の南部沿岸地域は、さまざまなリスクに対してより脆弱になりつつありますが、災害リスク軽減（DRR）の進展は、現実には依然として遅々としています。本研究では、政府の取り組みと住民からのフィードバックを分析することで、韓国の沿岸地域社会における既存の災害リスク軽減（DRR）戦略を調査することを目的としています。関連する規制を調査し、現地の政府関係者との面談、現地視察、および6つの沿岸地域の地域住民との非公式な話し合いを通じてデータを収集しました。調査の結果、これらの地域社会は、台風や豪雨などの他の災害と比較すると、沿岸洪水に対する回復力が低いことが明らかになりました。人口動態上の課題、断片的な制度枠組み、リスク意識の低さといった要因が、潜在的な影響を悪化させる可能性がある。この研究は、海面上昇とその他の要因の両方による沿岸洪水の影響を軽減するための統合的なアプローチの必要性を強調している。また、リスク意識を高め、環境の変化に適応することで、地域の防災努力に沿岸地域社会を関与させることの重要性を強調している。規制措置を適応戦略と整合させることで、これらの地域社会の災害に対する回復力を大幅に強化することができる。
S28	3月8日 (土)	11:30-12:30	白樫	防災投資の促進 仙台防災枠組の実現に向けて	JICA	英語	防災投資 災害リスク削減 気候変動適応	「仙台防災枠組2015-2030」では優先行動の1つとして「災害リスク削減のための投資（事前防災投資）」が設定され、世界各国で災害リスク削減の重要性や、事前防災投資が浸透しつつある。しかしながら、具体に取組を行うためにはその前提条件、必要条件が多い上に、気候変動の影響、人口の過度な集中、無秩序な都市の拡大等もあり、枠組の期間の3分の2が終わろうとしているが災害リスク削減への課題は多い。 本セッションでは、西川智JICA国際協力専門員が司会を務め、世界6か国（インドネシア、フィリピン、フィジー、バングラデシュ、スリランカ、メキシコ）の防災機関からの登壇を予定している。各国における災害リスク削減や事前防災投資について、その具体的な事例と成果、直面している課題を共有し、意見交換を行う。現状の課題を整理し、横展開が可能な成果・教訓を共有することで、世界規模での災害リスク削減、ひいては仙台防災枠組の実施促進にも貢献する。
S29	3月8日 (土)	13:30-14:15	白樫	消防車型キッチンカー・エンターテイメントを活用した、市民巻き込み型の防災	一般社団法人 日本消防防災UNITE機構	日本語	新たな連携 防災意識の向上 多様性	私達は、消防士、消防団、防災士が“共に”行っている活動を紹介致します。消防車型キッチンカーを活用し地域のお祭りや、様々なイベントに参加をしています。そして、活動中に会った「防災と関わる機会の少なかった方々」を巻き込んだ事例を紹介します。具体的には、能登半島への支援や、企業とのコラボレーション企画を通した防災のお祭りの開催、BCP導入、パバママへ向けた講演会など多角的に防災普及を行なっています。「防災と関わる機会の少なかった方々」をアプローチの対象とし、多くの人の巻き込みに成功している内容の共有。そして、今後の目標を発表させて頂きます。
S30	3月8日 (土)	14:45-15:30	白樫	巨大災害発災時の最後の通信網としての準天頂衛星通信システムが提供するメッセージサービス	事業創造大学院大学、国立大学法人 和歌山大学 客員教授、内閣府宇宙戦略推進事務局 準天頂衛星システム推進室 災害対応サービス検討委員、国交省 航空局 統合システム技術検討委員	英語	巨大災害 通信インフラ 測位衛星	巨大災害発生時に重要なインフラが破壊されることはよく知られている。東日本大震災の際は避難指示に重要となる防災行政無線システムの中継局が機能不全に陥り、数百台の同システム子局が避難指示の受信不能になった。日本の衛星測位システムである準天頂衛星システムのメッセージサービスを利用は、発災急性期の最後の通信網として期待できる。 衛星測位システムで災害時にテキストメッセージを放送するための衛星搭載用メッセージフォーマットが、日本と欧州で共同開発され今年3月に全世界にリリースされた。 本セッションでは、防災行政無線システムのフォールバックとして準天頂衛星システムのメッセージサービスを利用した実証実験も記録画像を使って紹介する。
S31	3月8日 (土)	16:00-17:00	白樫	MIRAI (Part 1): Resilience cities and communities	CNDS, Sweden、MIRAI, Sweden and Japan、IRI DeS, Tohoku University	英語	MIRAI DRR Climate Change	このセッションは、2つのMIRAIセッションの最初の部分です。MIRAIセッションは、スウェーデンと日本の17の大学間のコラボレーションであるMIRAIネットワークを活用し、長期的な研究協力に貢献し、世界をリードする大規模研究インフラを持つ国としてスウェーデンと日本をアピールすることを目的としています。MIRAIの第3フェーズ（2024年～2026年）では、グローバルな課題に焦点を当て、共同で取り組むという大胆なミッションに着手します。これにより、MIRAIは、日瑞の共同研究にとどまらず、国際的な規模で国家間の議論や対応が必要なグローバルな課題にも貢献することを目指しています。このセッションでは、都市計画、法律、政治学、人類学、環境科学の研究者が集まり、レジリエントな都市やコミュニティに関する専門知識を共有します。 学際的な知識と経験を活かし、アジア、ヨーロッパ、その他の地域で都市コミュニティが直面する喫緊の課題について議論し、仙台防災枠組やその他の目標で掲げられた、より強靱な世界を構築するためのいくつかのトピックについて検討します。
S32	3月8日 (土)	17:00-18:00	白樫	MIRAI (PART 2): Climate Adaptation Disaster and Risk Management and Prevention	IRI DeS, Tohoku University、CNDS, Sweden、MIRAI, Sweden-Japan	英語	MIRAI DRR Climate Change	このセッションは、MIRAIの2つのセッションのうちの2つ目のセッションです。MIRAIは、スウェーデンと日本の17の大学が連携し、長期的な研究協力に貢献し、スウェーデンと日本を世界をリードする大規模研究インフラを有する国として推進することを目的としています。MIRAIの第3フェーズ（2024年～2026年）では、グローバルな課題に焦点を当て、協調的に取り組むという大胆なミッションに着手します。これにより、MIRAIは、日瑞の協力関係だけでなく、国際的な規模で各国が議論し対応すべき地球規模の課題にも貢献することを目指しています。気候変動と災害リスク管理の分野の専門家を集め、このセクションでは、気候変動への適応、災害、リスク管理、予防に焦点を当てます。これらは、世界のリーダーたちが「仙台防災枠組」、「パリ協定」、および「持続可能な開発目標（SDGs）」を通じて取り組んでいる課題です。
S36	3月8日 (土)	18:15-19:15	白樫	防災イノベーション加速のためのワークショップ- 科学技術、政策、民間セクターの連携を活かして	国連防災機関（UNDRR）	英語	防災 減災 レジリエンス 仙台防災枠組	仙台防災枠組（2015-2030）は、防災における科学技術コミュニティと民間セクターの重要な役割を強調しています。防災政策に関する一義的責任は国や地方自治体にあります。同時に民間セクターや学術研究界もまた、災害リスクを軽減し、より強靱なコミュニティを構築するための知識の開発、技術革新、資金調達などを推進する上で重要な役割を担っています。 2023年に実施された仙台防災枠組の実施進捗に関する中間レビューは、枠組の進捗状況をレビューし、2030年に向けて枠組の実施を強化する重要な機会となりました。国連加盟国は、災害へのレジリエンスを強化する上で、科学・技術・イノベーションが重要かつ横断的な役割を果たすことを再確認するとともに、仙台防災枠組の実施を支援し、加速するために、科学・技術・イノベーションの一層の活用を促しました。研究成果や新たなイノベーションを、災害リスクにさらされている人々のために実行可能な政策・解決策に結びつけることが、極めて重要です。 国連防災機関（UNDRR）は「防災イノベーション加速に向けた科学技術、政策、民間セクター連携の構築」イニシアティブを立ち上げました。このイニシアティブの長期的なビジョンは、科学技術、政策、民間セクターの連携を推進することで、防災・減災・災害リスク軽減における課題解決や取り組みが促進されるインターフェースを提供することです。このイニシアティブの一環として、UNDRRは、世界防災フォーラム（2025年3月7-9日、仙台市）の中でワークショップを開催します。このワークショップでは、3つのステークホルダーが協働して解決策を探ることができるよう、3つのステークホルダー間の結びつきや連携を生み出している優良事例、それを可能とするための要素、メカニズムなどについて議論・共有します。
S33	3月9日 (日)	8:30-10:30	橘	日米国際共同研究でデジタル技術で人類の脅威を越え、豊かな未来に	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)、アメリカ国立科学財団 (NSF)	英語【同時通訳あり】	複合災害 人間中心のデータ 日米共同研究	日本科学技術振興機構（JST）と米国国立科学財団（NSF）は、日本と米国の資金提供機関として、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックを受けて、国際共同研究プログラムの実施を通じて社会にポジティブな影響をもたらすことを目指し、多大な努力を払ってきました。これらの取り組みの中には、2021年から2024年までの研究を支援した「デジタルサイエンスによるポストコロナ社会プログラム（DS-COVID19）」や、2024年から2026年までの研究を支援している「人間中心データによる災害レジリエンス研究プログラム（HCDDRR）」などがあります。 本セッションでは、DS-COVID19研究プログラムの成果と、HCDDRRプログラムの目的と可能性について概説し、議論します。その後、研究者、JSTとNSFのプログラムオフィサー、メディア関係者によるパネルディスカッションでは、パンデミックを含む将来の災害に備えるために何をすべきかについて議論します。研究が法律や政策に与える影響、必要なデータとデータプラットフォームの活用、危機的状況下で社会に情報を提供する上でメディアが果たす重要な役割など、さまざまなトピックを取り上げます。
S34	3月9日 (日)	11:00-12:00	橘	2つの提言：壊滅的災害へのそなえを考える～1995阪神・淡路、2011東日本、2024能登半島の教訓に学ぶ～	日本学術会議 防災減災学術連携委員会、IRDR分科会 ＜共催＞防災減災連携研究ハブ（JHoP）	日本語【同時通訳あり】	想定される壊滅的災害 情報戦略の高度化 メガシティ災害	日本学術会議では、2つの提言を通した未来の防災を考える場を創出する。過去の災害教訓を国内で想定される壊滅的災害の減災に活かす提言として「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく南海トラフ 巨大地震等における地域広域災害への備え」、この国内教訓を発展させ世界、特にアジアの防災に貢献する提言「壊滅的災害発生が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」である。本セッションでは、「壊滅的災害へのそなえを考える～1995阪神・路、2011東日本、2024能登半島の教訓に学ぶ～」をテーマとし、市民や地域から広く意見を集める機会とする。
S35	3月9日 (日)	12:30-13:30	橘	持続可能な防災主流化社会の実現に向けて～まちづくり施策の総合的な定量評価システムの共同研究～	一般財団法人世界防災フォーラム	日本語【同時通訳あり】	EBPM、仙台防災枠組、流域治水	昨今、ビッグデータ等の普及や、計算技術の向上など、活用できるデータの質・量の向上により、データの証拠に基づく施策展開（EBPM）の機運が高まっている。 そのような背景のもと、本セッションでは、パンフィックコンサルタンツ株式会社が開発した定量評価システムの内容について紹介するほか、開発に協力した東北大学災害科学国際研究所、仙台市防災環境都市推進室がそれぞれの取り組みを紹介する。また経済モデル等を活用することによる各種展開や、その効果などについて議論する。

S38	3月9日 (日)	09:00-11:00	萩	都市開発と災害リスク削減の持続可能な両立	グリーン未来創造機構 国際防災戦略イニシアティブ研究室	英語【同時通訳あり】	災害リスク削減 都市開発 持続可能な開発	人類の生活向上や開発過程では、本来目的である経済便益やウェルフェアの増加だけでなく災害リスクや環境破壊など負要因の増大も伴う。特に洪水氾濫原等の根源的なハザードレベルが高い土地は、豊かな自然資源や開発効率等の便益面から開発され、都市発展過程で中長期的に災害リスクが包蔵されていく原因となる。この傾向は、急速な経済発展段階にある開発途上国・防災ニーズ国ほど顕著である。持続可能な開発実現のためには、事前防災投資の拡充は不可欠であるが、経済便益やウェルフェアをなるべく損なわず災害リスク増加型開発を抑制することも極めて重要となる。このため、本セッションでは、効果的な事前防災投資事業のあり方にとどまらず、同時に効果的な災害リスク増加型開発の抑制につながる施策の可能性について、他の参加者からの提案や要望なども交えながら議論する。
S39	3月9日 (日)	11:30-12:30	萩	Recent advances in earthquake forecasting	University of California、IRIDeS、Tohoku University、Statewide California Earthquake Center (SCEC)、Association of Pacific Rim Universities	英語【同時通訳あり】	Earthquake Forecasting; Machine Learning and AI; Case Studies and New Technologies	高度な機械学習（ML）や人工知能（AI）などの新技術と、過去10年間に登場した信号処理ツールにより、地震予知の研究が活発化し、津波予知への影響も出ています。2024年の日本の地震、1月1日の能登半島地震、8月8日の宮崎・日向灘地震（南海巨大地震の公式警報が発令された）など、最近の地震は、予測方法の改善の必要性を強調しています。さらに、高密度センサーネットワークの設置によるデータセットの急速な拡大、多様な観測（音波、弾性波、リモートセンシングなど）、世界中の人工地震誘発、高解像度のMLベースカタログなどにより、地震の核形成メカニズムの研究に役立つリソースや制約条件がさらに多く提供されるようになりました。また、これらの手法は地震の前兆現象の調査も可能にし、その効果的な利用には高度なコンピューティング・アーキテクチャとデータ管理計画が必要となります。これらの新しい手法とデータセットは、シームレスな形で学際的な共同研究への扉を開きます。本セッションでは、地震予知および即時予知の分野における幅広い進歩について、以下を含む（ただしこれらに限定されない）貢献を歓迎します。 地震の予測/即時予測のための新しいデータ主導型または物理学的アプローチ、機械学習やAIを活用した精度と信頼性の向上、実験室から現場への地震予測/即時予測、画期的な実例研究、地震予測/即時予測の学際的研究、前兆現象の捕捉のための新しいセンサー技術や処理技術。 これらの分野のいずれか、またはすべてに関する発表を歓迎いたします。本セッションは、環太平洋大学協会（APRU）、東北大学災害科学国際研究所（IRIDeS）、カリフォルニア州立地震センター（SCEC）の共同開催となります。
S40	3月9日 (日)	13:00-14:00	萩	女性リーダーの育成が災害後の女性の尊厳を守るために必要な理由	公益財団法人地域創造基金さなぶり	日本語【同時通訳あり】	防災、ジェンダー、女性のリーダーシップ養成	東日本大震災の避難所等による女性の権利侵害や尊厳にかかる問題等をふまえ、休眠預金制度を活用して国内7地域で行われる防災・減災に関わる女性リーダーの育成事業へ資金提供、2年半で350人以上が修了した。大規模災害への防災・減災の議論では、ハード面での整備や自然災害からどのように生き延びるかという視点で語られることが多いが、生き延びた後から安定した生活までの期間に関する議論が不十分である。本セッションではその期間の特に避難所運営に女性がリーダーシップを発揮する必要性、QOLの向上、並びに性暴力被害等のリスク軽減にどのようにつながるか、我々の7事業の人材育成と能登半島地震での支援経験を元に発信したいと考えている。
S41	3月9日 (日)	14:30-15:30	萩	Tsunami Preparedness Across Asia-Pacific: Stories and Actions	国連開発計画（UNDP）	英語【同時通訳あり】	津波, UNDP, 学校	このセッションでは、地域津波プロジェクトを通じた日本政府とUNDPの共同の取り組みに焦点を当て、アジア太平洋地域の学校、コミュニティ、政府が協力して津波への備えを強化してきた様子ををご紹介します。実際の体験談を聞き、実践的な行動を発見し、安全を確保するために協力することの重要性を学びましょう。
S37	3月9日 (日)	08:30-09:30	白樺	Lessons learned from Hawai'i wildfire and the Great East Japan Earthquake and Tsunami	ハワイ大学	英語	未定	The August 2023 Maui, Hawaii wildfire, which burned approximately 2,200 homes and killed 102 people, was exacerbated by high winds that sparked multiple fires just after midnight on August 8, 2023, especially in Lahaina, where wind gusts reached 60 mph, dry summer conditions, low humidity, and Hurricane High winds caused by Dora exacerbated the fires. Such a disaster was especially devastating economically for Hawaii, where tourism is a major industry. Disasters in this region, which attracts many tourists, have affected confidence in the tourism industry, and long-term recovery is needed. In 2011, the Great East Japan Earthquake struck Japan, leaving more than 18,000 people dead or missing, mainly due to the tsunami. More than a decade later, infrastructure and other reconstruction efforts appear to be nearly complete, but the recovery of people's lives is still a long way off. This experience has underscored the importance of early evacuation in order to protect lives from future disasters. Furthermore, this disaster is said to be a multiple/cascading disaster of an earthquake, tsunami, and nuclear power plant accident, so it is necessary to consider how to respond to and tackle this unprecedented disaster. Hawaii will be engaged in a long-term recovery, but what can we learn from the Great East Japan Earthquake in the process? In this session, we will share the challenges of Hawaii's wildfire response, recovery, and future disaster management, and discuss what we can learn from the Great East Japan Earthquake experience in order to solve these challenges and promote recovery.
S43	3月9日 (日)	10:00-11:00	白樺	Highland-lowland social ecological resilience through local knowledge systems	UNU-EHS GLOMOS、Tohoku University GP-RSS、Tohoku University, IRIDeS、Kyoto University	英語	Mountain social-ecological systems local knowledge community resilience	「山岳地域は世界的に見ても、そこに住む人々や周辺の低地に住む人々に対して重要なエコシステムを提供しています。しかし、土地利用の変化、気候変動、過剰開発、人口増加といった複数の人為的要因が、これらのシステムの社会生態学的回復力に深刻な影響を与えています。さらに、山岳地域は複数の相互に関連するリスクにさらされやすく、それらのリスクは前述の要因や特定の社会人口統計学的状況によって悪化します。これらの複雑に絡み合った課題に包括的な方法で取り組むことの緊急性がますます認識されるようになってきています。人間と自然の相互作用を調査し、山岳地域の社会生態系システムの総合的な回復力を促進する対策や活動を特定するには、学際的および分野横断的なアプローチが必要です。トップダウン型の災害リスク管理では、地域固有の知識や文化遺産が十分に統合されることはまれであり、科学的知識を代表する専門家と地域の見識を提供する関係者との間のコミュニケーションも不足しています。同時に、気候変動への適応や災害リスク軽減のプロセスにおいて、リスク管理における人間的側面をより強く考慮する必要性を裏付ける科学的証拠が増えつつあります。 本セッションでは、高地および低地の社会生態系の回復力を向上させるために、災害リスク軽減プロセスにおける多様な知識体系を統合する現在進行中の取り組みと機会について紹介します。
S44	3月9日 (日)	11:30-12:30	白樺	From Data to Action: Monitoring Systems and Early Warnings for Disaster Risk Reduction	UNESCAP/WMO Typhoon Committee	英語	typhoon committee monitoring system early warning	このセッションは、14カ国が加盟する国連ESCAP/WMO台風委員会の災害リスク軽減作業部会が主催する。このセッションでは、台風、洪水、地滑りなどの災害に対する災害管理におけるモニタリングシステムの重要な役割に焦点を当てる。早期警報技術と災害リスク軽減戦略の進歩を探り、災害への備えと回復力を強化する上でモニタリングとデータ分析が果たす役割の重要性を強調する。このセッションは、気候変動の影響に対処し、脆弱なコミュニティを守るための協調的な取り組みを促すことを目的としています。
S45	3月9日 (日)	13:00-14:00	白樺	インドネシアにおける気候起因の移住に伴う損失と損害の評価に向けて	東北大学災害科学国際研究所	英語	気候変動移民 損失と損害 インドネシア	2009年の国際移住機関の予測によると、環境変化が起因となって2050年までに2億人が移転を強いられるとされ、実際にはその予測を2.6%上回るペースで移住が進んでいる。このような状況の下、移住者の安全で秩序ある移動及びその人権を保障する国内外の法制度・社会システムの整備が喫緊の課題となっている。本セッションでは、インドネシア・ジャカルタ市北部において、気候変動をはじめとする環境変化に起因した災害等（洪水・地盤沈下・海面上昇など）の影響による地域住民の避難・移住について、「尊厳ある移住」を前提とした損失と損害の評価に係る方向性を提示するとともに、「変革的適応（transformative adaptation）」の実現に向けた提言を行う。
S13	3月9日 (日)	14:30-15:30	白樺	気候変動の影響を受けるコミュニティレジリエンスを高める方法の検討 ー令和5年秋田大雨被害を例にー	東京農工大学 保健管理センター	日本語	コミュニティレジリエンス 気象災害 メンタルヘルス	気候変動は現代の大きな課題の1つであり、直接的および間接的に人間の身体的および精神的な病理を引き起こす可能性がある。しかし、気候変動に関連するメンタルヘルスに関する研究は少ない。ここでは令和5年秋田大雨被害をとりあげ、被害後の様々なタイミングでどのようなメンタルヘルスへの影響が現れるかを示す。その影響は、地理的条件、情報、医療機関へのアクセスなど、被災者の属するコミュニティのレジレンスによって異なる。 本セッションでは、まず気象学の教授が令和5年秋田大雨について解説し、メンタルヘルスの専門家とメディアの代表者が、秋田大雨被災者におけるメンタルヘルスの経時的変化について説明する。そして被災したコミュニティレジレンス強化のための1例として、メンタルヘルス改善のためのアプリme-fullness®を紹介する。

S50	3月7日 (金)	第一部 14:45～15:30 第二部 15:42～16:30	大ホール	『事業継続セミナー』 第一部 トークセッション 『TSUNAGU ーつなぐ、記憶を未来へ』 第二部 パネルディスカッション TSUNAGU ーつなぐ、事業の未来へ～ 事業と未来をつなぐ～	AIG損害保険株式会社	日本語	事業継続	第一部では、「東日本大震災に学ぶ命を守る行動」、「海とともに生きる」そして「記憶と教訓を未来へつなぐ」というテーマを通じ、私たちがどのように防災意識を高め、次世代へとつなげていくのかを考えていきます。ゲストスピーカーは、気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館 館長の及川淳之助（おいかわ じゅんのすけ）様と前館長の芳賀一郎（はが いちろう）様です。 第二部では、東日本大震災から年月が経ちましたが、災害時に企業がどのように事業を継続し、従業員の雇用や工場や設備などの事業基盤を再生させたのか。震災を経験された経営者の皆さまにお話を伺いながら、事業継続やリスクマネジメントの専門家の方とともに議論を深めていく、パネルディスカッションを実施します。
-----	-------------	--	------	--	-------------	-----	------	---

S51	3月7日 (金)	14:00-14:30 16:00-17:00	小会議室4	防災トーク「職場に溶け込む防災のあり方とは？」	株式会社 日立製作所 共催：株式会社良品計画、株式会社日立ハイテク	日本語	病院での防災／職場のウェルビーイング／いつものもしも	どうすれば、職場に溶け込む防災を実現できるでしょうか？ 災害が日常化する現代において、防災は特別な準備ではなく、日常の中に自然と溶け込む形が求められています。本セッションでは、久留米大学病院、日立ハイテク、良品計画が共同で実証実験を行った「防災備蓄を兼ねた職場環境改善サービス」を題材に、医療現場における「いつものもしも」の新しいアプローチについて語ります。サービスで利用する無人コミュニケーション店舗「CO-URIBA」の実機も体験いただけます。 トークの前半では、日立ハイテクが提案する、医療従事者の働き方改革と災害時の備えを両立させる仕組みの魅力、および良品計画が取り組む「いつものもしも」の自治体や地域防災への展開についてご紹介します。トークの後半は、病院という職場に防災を溶け込ませるための課題について議論します。 職場環境の改善、ローリングストックの活用、防災意識の向上に興味のある方はもちろん、医療現場以外でも応用可能なヒントが満載の内容です。未来の防災のあり方を一緒に考えてみませんか？ぜひ私たちのブースにお立ち寄りください！
S52	3月7日 (金)	10:00-12:00 13:00-14:30 15:00-16:30	小会議室5	ベレー帽のアップサイクルワークショップ ハットのアップサイクル	主催：世界防災フォーラムレボリスLab(ラボ) 協力：日本一のベレー帽ブランド株式会社ヨシダ様	日本語	リサイクル帽子SDGs	・世界防災フォーラム2025防災x帽祭のテーマ『防災をエンタメに』を表現するキーアイテム帽子に関する2つのワークショップを開催。 ・日本一のベレー帽ブランド株式会社ヨシダ様のみんなの夢を帽子に乗せてという想いとサステナブルへの積極的な参加がご縁となりベレー帽をご提供いただき、わくわく自分だけの帽子をアレンジ。 https://onokun.com/beret-upcycle/ ・全国から譲っていただいた、使わなくなった帽子を装飾を加え、アップデートし、おしゃれで楽しいくなるアイテムに変身させるワークショップ。 https://onokun.com/hat-upcycle/
S53	3月8日 (土)	11:00-11:30 14:00-15:00	小会議室4	防災トーク「職場に溶け込む防災のあり方とは？」	株式会社 日立製作所 共催：株式会社良品計画、株式会社日立ハイテク	日本語	病院での防災／職場のウェルビーイング／いつものもしも	どうすれば、職場に溶け込む防災を実現できるでしょうか？ 災害が日常化する現代において、防災は特別な準備ではなく、日常の中に自然と溶け込む形が求められています。本セッションでは、久留米大学病院、日立ハイテク、良品計画が共同で実証実験を行った「防災備蓄を兼ねた職場環境改善サービス」を題材に、医療現場における「いつものもしも」の新しいアプローチについて語ります。サービスで利用する無人コミュニケーション店舗「CO-URIBA」の実機も体験いただけます。 トークの前半では、日立ハイテクが提案する、医療従事者の働き方改革と災害時の備えを両立させる仕組みの魅力、および良品計画が取り組む「いつものもしも」の自治体や地域防災への展開についてご紹介します。トークの後半は、病院という職場に防災を溶け込ませるための課題について議論します。 職場環境の改善、ローリングストックの活用、防災意識の向上に興味のある方はもちろん、医療現場以外でも応用可能なヒントが満載の内容です。未来の防災のあり方を一緒に考えてみませんか？ぜひ私たちのブースにお立ち寄りください！
S56	3月9日 (日)	8:30-10:00	小会議室7	World Bosai Forum 2025 Special Session Progress of Tsunami Inundation Forecast Technologies towards EW4ALL and Tsunami Ready	International Research Institute of Disaster Science(IRiDeS), Tohoku University	英語		The session's topic is "Progress of Tsunami Inundation Forecast Technologies towards EW4ALL and Tsunami Ready." The session's focus is on sharing the current progress of tsunami hazard and damage forecast technologies to achieve EW4ALL (Early Warnings for All) and Tsunami Ready. Opening remarks Shunichi Koshimura, Deputy Director, International Research Institute of Disaster Science, Tohoku University
S54	3月8日 (土)	10:00-12:00	小会議室5	世界に貢献する日本発早期警戒システム	早期警戒システム導入促進に係る国際貢献に関する官民連携協議会」(EWS協議会)	日本語		環境省では、ASEAN地域を始めとするアジア太平洋地域において、日本の民間企業によるビジネスセクター向けの早期警戒システムの導入や早期警戒システムを活用した事業展開を進めるため、関係する行政機関・公的機関や日本の民間企業等と連携し、導入に向けた道筋を付けることを目指しています。 この取組について、官民の関係者間で必要な協議等を行うため、「早期警戒システム導入促進に係る国際貢献に関する官民連携協議会(EWS協議会)」を設置しました。今回のセッションでは、海外にソリューションを展開する際の課題や方法について議論していく。 ファシリテーター：環境省・松田様 EWS協議会事務局：ハン様 ウェザーニュース：立野様 Spectee：根来様 エアロセンス：嶋田様
S55	3月8日 (土)	14:00-16:00	小会議室5	ぼうさいXエンターテイメント～みんなが大好きなお祭りに防災を！防災射的、防災手話ダンス、盆踊り、FM湘南ナパサラジオ番組公開収録に参加しよう！～	主催：ご近所 de 防災 協力：清水友美	日本語		FMラジオ公開収録や防災ゲーム、また防災盆踊りなど、防災をエンタメで親しみやすくするイベントです。お気軽にご参加ください。詳しくはチラシを！